

光と風の大地

～北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」～



2019.3
No.
543

生産技術の高度化を目指し!

—常呂町農業技術・情報交換会—



開会挨拶を述べる
北見市辻孝宗
常呂自治区長



ゆめちからへの安定した
多収を目指す取組みについて報告する林さん



参加した皆さんは熱心に報告や講話を聞いていました

北見市、JJAところ、網走農業改良普及センターで構成する北見市農業振興会議常呂自治区部会は2月7日、「常呂町農業技術・情報交換会」を開催しました。常呂町多目的研修センター大ホールで、関係者など約60人が参加しました。

この会は、地域で取り組まれている農業技術や現地事例などを情報交換し、農業生産技術のさらなる高度化及び地域活性化を目的に行われているものです。

当日は組合員やJJA職員など5人から、試験や調査報告4点、活動報告1点が発表されました。

試験・調査報告では、「玉ねぎ品種「S.N.1」の現地適応性、根切り時期、抽苔対策の各試験について玉葱振興会青年部の沼崎栄樹さん、基肥の回変施肥実地試験について、常呂町スマート農業研究会の馬渕修さん、プロジェクト活動報告で「ゆめちからの多収を目指す取組み」について、常呂町4Hクラブの林俊文さんら合計5人がそれぞ

れの取組みを説明しました。

また、同日行われた基調講演では、元置戸町給食センター管理栄養士で、H.K.番組や各地域での講演で活躍される佐々木十美氏を講師に招き、「生きることは食べること」「味覚を育てる」と題して講演をいただきました。

講演では、自然から抽出したダシと化学調味料を含んだダシ、原材料の一部が異なる3種類のみりん、味噌などを試食。私たちの食生活の中で普通に利用する調味料と、天然素材だけで作られた調味料などを比較しながら、その特性や天然由来の調味料的重要性、またコンビニで販売されるお弁当などの防腐剤の怖さなど、これまでの管理栄養士としての実務を通して経験した事例などをわかりやすく説明していました。

また、展示品コーナーではJJAところ創立70周年を記念した写真の展示物や、ところピンクにんにくのスプラウ

ト「あしながにんにく」の素揚げ試食会も行われました。

各報告や基調講演を聞いた参加者からは、「今後の當農技術の参考にしたい」「健康を考え、教わった調味料やダシにじだわってみたい」など多くの感想が寄せられました。



食品添加物について
講話する佐々木さん

—常呂町二ノ二ク耕作者部会役員道外視察研修—

太部会長(森澤正)は、1月15日～18日までの日程で役員道外視察研修を行い、部会長を始めとする3人が参加しました。

当部会では、生産量を拡大し加工販売の他に生食販売の実施強化に取組んでおり、平成30年産の生食出荷量は約10tとなりました。

生食の販売先については、今回視察した東一川崎中央青果株、横浜丸中青果株が主要販売先となっており、今後の生食販売拡大に向けた販売促進活動の取組みについて情報・意見交換を行いました。

また、愛媛にある農産物の選別機などを製造するプラス機工エンジニアリングを訪問し、今後の選別作業省力化の参考にするため、形状選別機を見学しました。

今回の視察を通して、より一層販売先との連携を

り、安心安全で高品質な二ノ二クを栽培しなければならないと改めて確認することのできた研修となりました。



形状選別機について説明を受ける
役員の皆さん

販売先との連携を密に

酪農青年部

高品質乳の生産体系を学ぶ

常呂町酪農振興会青年部（鈴木輝雄部長）は、1月28日、佐呂間町にある川又牧場へ部員とオブザーバー1人が参加のもと視察研修を行いました。

視察先である川又牧場は、

フリーストール牛舎で搾乳形態はバーラー（8頭ダブル）、現在の経産牛の頭数は約150頭（内、搾乳牛は130頭前後）、育成牛は育成センターへ預けており、育成牛舎にはセンターから戻ってきた40頭前後が飼養されていました。

同牧場の川又崇史さんは、最初、他の職に就いていましたが、お父さんの病気を機に退職し、酪農を継ぐ決意をしました。しかし、現状の経営で2世帯分の生活費を捻出し



●川又牧場を視察する部員の皆さん

MRセンターの利用、畑作業は業者の委託により、労力の大部分は飼養管理に充てられ、品質の良い生乳生産・出荷ができるようになりました。

視察に参加した部員も、それぞれ気になつた事について質問を行い、さらに意見交換や飼養管理などについて詳しく教えていただき、とても有意義な時間となりました。

常呂町玉葱振興会（泉直喜会長）、同振興会青年部（今橋賢一部長）は1月28日、網走市の網走湖畔で玉葱振興会第52回通常総会、玉葱振興会青年部第47回通常総会を開きました。

初めに、常呂町玉葱振興会青年部通常総会が開かれ、開会に先立ち、今橋部長の開会挨拶に続き、玉葱振興会の泉会長から祝辞を頂きました。議長には岐阜地区の山口翔史氏を選出して、議案審議に移りました。慎重審議の末、全議案共に可決されました。

平成30年産玉葱は、定植作業も順調にスタートしていましたが、5月上旬の降雨により作業は遅れ平年より6日遅い5月12日に移植作業が終了しました。その後6月、7月と激しい寒暖差や多雨に見舞われましたが、その後は目立った寒暖差もなく、適度な降雨に恵ま

区の市場担当者（3社）、その他関係機関の方々を招き、各社から祝辞を頂きました。議長には共立地区の大友茂己氏が選出され議案審議に移り、会員の皆様からの活発な意見がありましたが、全議案共に可決されました。

全ての総会終了後、来賓を交えて懇親会を開催し、意見交換を交えながら盛況下の内に無事終了致しました。

さらなる高品質・高収入を目指して

—常呂町玉葱振興会・青年部通常総会—

常呂町玉葱振興会（泉直喜会長）、同振興会青年部（今橋賢一部長）は1月28日、網走市の網走湖畔で玉葱振興会第52回通常総会、玉葱振興会青年部第47回通常総会を開きました。

議長には岐阜地区の山口翔史氏を選出して、議案審議に移りました。慎重審議の末、全議案共に可決されました。

同青年部の総会終了後、引き続き、常呂町玉葱振興会の開会に先立ち、

開会に先立ち、

開会挨拶を述べました。

来賓には、

当づゝ江田哲副組合長、関東地



開会挨拶を述べる
泉会長



●同日に玉葱振興会青年部の通常総会も行われました

原料甜菜収量全道平均上回る

—常呂町甜菜振興対策協議会通常総会—

常呂町甜菜振興対策協議会（植松孝雄会長）は2月7日、JA会議室で第60回常呂町甜菜振興対策協議会通常総会を開きました。

開会に先立ち植松会長から平成30年度の甜菜作況状況の報告を含めた開会挨拶の後、



● 総会に出席する会員の皆さん

平成30年度事業報告・収支決算書の承認、平成31年度事業計画(案)・収支予算(案)について、議案通り可決されました。

その後、役員の改選があり、岡崎尉伸選考委員長より会長の選考の説明がなされ、現会長の植松会長が再選されることで可決されました。全議案が原案通り可決し、植松会長が閉会の挨拶を述べ、総会が終了しました。

平成30年度の原料甜菜の生産実績は全道で $63 \cdot 10 \text{ t} / \text{ha}$ 、糖分は $17 \cdot 2\%$ となりました。常呂町においては、平均収量 $67 \cdot 84 \text{ t} / \text{ha}$ 、糖分は $17 \cdot 2\%$ で6月の多雨低温日照不足、7月からの台風による冠水や浸水被害など厳しい気象条件でしたが、収穫作業は順調に推移し、前年を上回

来賓の当JA川上和則組合長、日甜美幌製糖所小島洋司所長

よりご祝辞を頂き、会長が議長を兼任し議案審議に入りました。

平成30年度事業報告・収支決算書の承認、平成31年度事業計画(案)・収支予算(案)について、議案通り可決されました。



開会挨拶を述べる植松会長

る作柄を確保した年になりました。

最後に平成31年度も甜菜の生産や面積増に努めて参りますので甜菜耕作者の皆様の協力をお願い致します。

新役員は次の通り（敬称略）

○ 会長 植松 孝雄（福山地区）

○ 副会長

山内 直喜（岐阜第3地区）

○ 監事 土田 雄也（富丘第1地区）

○ 選考委員 山内 貴博（土佐地区）

安藤 貴彦（共立地区）

○ 選考委員 高橋 金吾（豊川地区）

山内 貴博（土佐地区）

清井 英之（岐阜第1地区）

兼太郎（日吉地区）

将来の本町農業における 担い手対策の推進強化

—常呂町担い手受入協議会通常総会—

常呂町担い手受入協議会

（林健志会長）は、2月8日

にJA会議室で第20回通常総会を開きました。

総会には、当JAの川上組

合長、網走農業改良普及センターの布日曉洋

及セントラルの北見市常呂総合

支所の所貢範係長が来

賓として出席し、代表

して川上組合長が祝辞

を述べました。

議案審議では、農業

実習生3名の受入実績

を含めた平成30年度事

業報告と、平成31年度

事業計画では、拓殖大

学北海道短期大学の学

生3名、長崎県諫早農

業高等学校から1名の

実習生を受入れる体制

及び役員による先進地

視察や受入農家向け研

修会の開催について審

議され全議案が可決さ

れました。

また、総会の中で実



● 総会に出席した皆さん

平成30年度 オホーツク青年部道外視察研修を終えて

常田町農協青年部部長 所 尚玄なおひろ

オホーツク管内青年部道外視察研修が1月15日～18日までの4日間、関西地方を中心に行われましたので、研修要点を報告致します。

地域があり、安定的に作付して欲しいという要望が挙がりました。

次の視察先は、森嶋食品工業の日本はるさめ工場です。昭和11年に創業してからオホーツク産の澱粉を使用しているといつ繋がりから視察させていただきました。

森嶋食品では国内産澱粉で世界に勝てるような春雨を作っていました。一方、オホーツク産（ビホロ農工連）澱粉では毎年供給不足で、赤福同様作付面積の一定化を図る必要があると考えられます。

三つの視察先は、京都へ向かう道中にある、造幣局内

の造幣博物館で貨幣の歴史などを学んだ後、京都府中央会員宅で昼食と意見交換を行いました。中川会長は酪農も営んでおり、京都の酪農の現状や胆振東部地震での被害状況や今後の対策について意見交換した後、京都府青年部協議会との意見交換、圃場視察をしました。

今回、地方創生の取組みについて詳しく話を聞いて、北海道では農業体験や自分で作った野菜の調理、販売、加工などは出来ますが、それを淡路島という一つの地域で出来るのはすごいと感じました。そして他にも、人材や観光客を呼び込むためにアミューズメント施設を建てるなど、色々な事業を展開していく、大手会社の事業展開がすごいなと思った反面、地元の人はどう考えているのかと気になりました。

今回の研修を通して、赤福は、年間の国内での春雨のシェアは、20,000tの内、中國産が8,000tであり、国産が8,000tあります。

●赤福の製造中の様子



●道外視察研修に参加した皆さん(後列右から3人目が所部長)

り、懇親会もおおいに盛り上がりました。

最後は、淡路島にある、地方創生の取組みを行っている人材派遣会社のパーソナグループです。20年かけて400ha

を開拓したパーソナは、雇用創出を目標に環境作りの強化、農業研修できる場所、淡路島

自ら自身、儲かる作物を作る

のが当たり前だと思っていま

したが、北海道の農業が安定供給出来なくなれば、輸入を

しなくてはならなくなる現状

もあります。また、価格が高

くても北海道産にこだわり続

けてくれる業者がいてくれる

有難さを考え、これから農

業を展開していくかなくてはな

らないと考えるきっかけにな

りました。

や森嶋食品工業で言われた通

り、最近では市場価格や相場の変動で作物の面積の変動が

北海道全体で大きいという現

状を目の当たりにしました。

自分自身、儲かる作物を作る

のが当たり前だと思っていま

したが、北海道の農業が安定供給出来なくなれば、輸入を

しなくてはならなくなる現状

もあります。また、価格が高

くても北海道産にこだわり続

けてくれる業者がいてくれる

有難さを考え、これから農

業を展開していくかなくてはな

らないと考えるきっかけにな

りました。

最初の視察先は、伊勢名物である赤福本店です。赤福は、創業300年を超える老舗で、本店の建物は明治10年に建てられたままの状態で現在も営業しています。赤福で使用されている小豆（北ろまん）は、年間16,000俵位でその内26年度産からオホーツク管内（昨年よりビーンズファクトリー調整）小豆を3,000俵使用しているそうですが、赤福からは近年、小豆の市場価格や作付面積減少の影響で契約数量が確保できない

工場では春雨と葛きりの二つのラインの製造工程がありました。春雨と葛きりの違いは、まず原料にあり、春雨は

北海道で作られた澱粉のみ使用され、葛きりは澱粉と一緒に使われ、葛きりは澱粉と一緒に使われるそうです。また、製造方法の違いは、春雨は薄く伸びた生地を一度冷凍して解凍させ、葛きりは、生地を乾燥させるところが違います。春雨

は主にサラダや炒め物に対して、葛きりは冬の鍋などに使われます。

工場見学後に意見交換が行われ、年間の国内での春雨のシェアは、20,000tの内、中國産が8,000tであり、国産が8,000tあります。

知識の習得と 交流を深める

—JAとじろ青年部 研修会・スポーツ交流会開く—

JJAとじろ青年部（所尚玄
部長）は1月21日、北見市で
研修会・スポーツ交流会を開
き、青年部員31人が参加しま
した。

研修会は北見市民会館の会
議室を使用し、「GPSガイ
ダンシステムと可変施
肥技術」をテーマに、(株)
トブコンから利尾康嗣氏
と(株)セキ北海道から中
野一樹氏を講師に招い
て、行いました。

プロジェクトとハン
ドル実演機でGPSガイ
ダンシステムを紹介
し、圃場での自動操舵や
メリット、可変施肥技術
を使用した実例や効果な
どが説明され、特にIC
T技術に関心の高い青年
部員は、多くの質問をし
て有意義な研修会となり
ました。

研修会終了後は、ボウ
ル北見でボウリング交流



● 参加者は真剣な表情で講話を聞いていました



● 女性組織綱領を朗唱する部会員の皆さん

オホーツクJA女性協議会
主催の「フレッシュユミズ部員
研修会」が12月4日～5日に
温根湯「大江本家」で開かれ
ました。
管内フレッシュユミズ部員約
80人が参加し、JAとじろか
らは、今橋さやか部会長を始
めの人々が参加しました。

1日目の研修では、「フレ
ッシュ☆」として5つの競技を
チームに分かれて実施。昨年

2日目は、フレッシュユミズ
の主張発表でJA清里町の岡
本知子さんが「私の清里と農
業とフレッシュユミズ」と題し
て、専業農家の嫁として時き
付けから収穫までの一連の農
作業を通し、自分の中での見
解や楽しみを見つけ、農作業
や家の事について相談できる
場所がフレッシュ。フレッシュ
ユの長として活動をいかに盛
り上げていくかを課題とし清
里町で農業を通し強く生きて
いきたいと発表を行いました。

次に、「農業を軸に、地域
と向き合いながら、まちづく
りに奮闘——地域で起業し、
気づいたローカルビジネスの
本質と大切なこと——」と題し、

野菜農家へ嫁いでから農作業
の傍ら地元士幌町の道の駅を
運営する会社を設立するまで
に至った経緯などを株式会社
at Loco-a代表取締役
の堀田悠稀氏が講演しました。
2日間を通して、参加者は
「今回は参加者が少なかった
が、少ない人数だからこそ色々
な人と話すことが出来た」「堀田さん
の話が聞けて良かった」と話していました。

地域を越え交流深める

—オホーツクJA女性協・フレッシュユミズ部員研修会—



● 他JAのフレミズ部員と交流を深めました





女性組織綱領を朗唱する部員の皆さん

JJAといひの女性部（岡田理子部長）は1月28日、JJA会議室で女性部員47人が参加し、第63回通常総会を開きました。開会に先立ち、岡田部長よ

活動方針に基づき 女性部活動の活性化を

り「先日予定していた総会が悪天候のため延期することになりました。」（今橋さやか部会長）がなど時間や場所の関係で総会だけとなり、大変申し訳なく思っております。昨年は時々付けから順調に思われましたが、6月の低温や日照不足7月には2度の大雪で農地の冠水や停滞が起り、麦などに影響がありました」と昨年の作況状況を話す、また9月6日に発生した北海道胆振東部地震について「地震の影響で道内各地においてフラックアクトが起こり農畜産関係などに大きな被害が発生しました。大変な2日間でしたね。酪農家も発電機の調達や搾乳の受入拒否でやむなく残念な思いをされた方もいらっしゃると思います。改めて天気のありがたさを感じました」との挨拶後、来賓の江田折副組合長、北見市常呂辻孝宗自治区長より温かい祝辞を頂きました。

○ 部長 岡田 理子
○ 副部長 小野寺 敬子
○ 副部長 石田 良美

天候に恵まれる一年に！

— JJAといひの女性部通常総会 —



開会挨拶を述べる岡田部長

事業計画に基づき実りある一年に

～フレッシュユミセスの集いに22人参加～

真剣に講話を聞きました。
また、役員改選も行われ、新役員が次の通り選任されました。（敬称略）

○部長 林 理沙
(岐阜地区)
○副部長 清尾 和歌奈
(土佐・共立・豊川地区)

JJAといひのフレッシュユミセス部会（今橋さやか部会長）は、1月29日にJJA会議室で部会員22人が出席し「フレッシュユミセスの集い」を行いました。開会に先立ち、今橋部会長は「皆さんのご協力により1年無事終えることが出来ました。活発な意見を出して頂き、より良い集いにして行きたいと思いますので、ご協力よろしくお願いします」と挨拶しました。

全日程終了後、「能取の莊かがり屋」に移動し部会員17人が参加し懇親会が行われました。

その後、来賓の当JJA女性部の寺町部長より挨拶を頂きました。議案審議に入りました。平成30年度活動報告及び平成31年度事業への取組みなど全ての議案が全会一致で可決されました。懇親会では、役員が考えたゲームなどで大いに盛り上がり、部会員同士の交流が深まる時間となりました。

議事終了後には、昨年11月に行われた組合員研修「夢さがし塾」に参加した部員より研修内容の報告がありました。本年は、役員改選も行われ、新役員が次の通り選任されました。（敬称略）

総会終了後、常呂総合支所保健福祉課の松本愛美氏を招き「女性のための「ここから講座」」の講習会を行い、部員は女性特有の身体の不調の原因や解決方法、健康診断の必要性などについて学び、



フレッシュユミセスの集いに参加した皆さん

営農集団長会 役員変更のお知らせ

【役員任期：2年間（平成31年度～平成32年度）】

会長 関谷英治
副会長 得川哲也

《地区営農集団長》

東士岐阜第1	浜佐向	白向	石井建	蔵彦	豊富	川江守	田屋山	雅郁	一生行
岐阜第2	岐阜第3	岐阜第3	谷関野室	和英考祐	丘第3	第1	横小野寺	弘基	靖行
共立	立得	得	川田	治徹一也	福日	山吉	伊藤		

（敬称略）

家の光

読まずには
いられない!
新10連載
スタート!!

12月号から誌面を大幅リニューアル!

今知りたい! とっても気になる!!
フリー特集を毎号3本

女性組織活動にすぐ役立つ
手芸・健康のミニ特集を
毎号掲載!

年6回別冊付録付き
ひとつのテーマを掘り下げて紹介

協同や助け合いのたいせつさを
伝える記事、JA自己改革関連記事なども
タイムリーにわかりやすく掲載!

お申し込みはお近くのJAへ JAグループ 家の光協会 〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11 TEL03-3266-9039 <http://www.ienohikari.net>

※タイトル・内容は変更することがあります。

定価(税込) ●普通月号 617円
●付録月号(1・4・5・7・9月号)906円
●家計簿付き12月号 1,008円



行事予定表

3月1日(金)~3月31日(日)

3月 2日(土)

閉組日

3月 9日(土)

閉組日

3月16日(土)

閉組日

3月21日(木)

春分の日

3月22日(金)

第2回定例理事会

3月23日(土)

閉組日

3月24日(日)

農休日

3月30日(土)

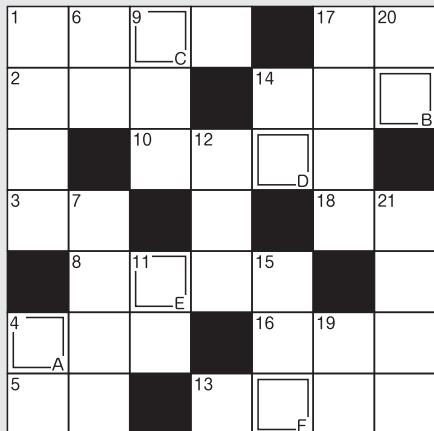
閉組日

第12回理事会報告

- 共済規程の一部変更について
原案の通り一部変更することで承認されました。
- 平成30年度中山間地域所得向上支援事業の実施について
原案の通り実施することで承認されました。
- 固定資産の取得について(100万円以上)
原案の通り取得することで承認されました。
- 北海道胆振東部地震対策支援に伴う見舞金の支払について
災害見舞金を支出することで承認されました。
- 資金貸付に伴う農協と理事の契約(貸越極度額の設定)について
原案の通り設定することで承認されました。
- マイカーローンキャンペーン実施に伴う貸付金利率の設定について
次の通り貸付金利率を設定することで承認されました。
○利率(年)
優遇 1.50%
最優遇 1.30%
○期間 平成31年2月1日~9月30日まで
- 組合員出資の減口について
原案の通り減口することで承認されました。
- 平成31年度事業計画(案)について
原案の通り設定することで承認されました。
- 平成31年度事業損益の設定について
原案の通り設定することで承認されました。

〈報告事項〉

- 内部監査報告について
- S49麦乾燥工場の火災に係る共済金額の確定について
- 農業委員会開催結果について



Crossword Puzzle ～クロスワード・パズル～

二重マスの文字をA~Fの順に並べ替えて出来る言葉はなんでしょうか?

タテのカギ

- 片目だけパチンとつむります
- 夜空できらめきます
- 不満がたまるとこぼしてしまうことも
- ショベルカーやブルドーザーなどのこと
- ホエールはクジラ、ドルフィンは○○○
- 師匠に就いて学ぶ立場です
- 丸木を組んで作る舟
- 平和の象徴とされる鳥
- コンビニで免許証の○○○を取った
- 機嫌がいいときに漏れる「フンフンフーン♪」
- なめて味わうお菓子
- アイロンをかけてのばします
- 先は闇、慎重に進みたいものです

ヨコのカギ

- ホー、ホケキヨ!
- わずかな希望のことを○○○の望みともいいます
- 当たりかな、外れかな
- カビが増殖するために飛ばします
- 春・夏・秋・冬と巡ります
- 長湯をして○○○○のように真っ赤になった
- 受験生に問題用紙と○○○○用紙が配られた
- しょうゆ、みそ、塩、豚骨…色々な味があります
- 開店祝いの札を付けた物が店先にずらりと並ぶことも
- 耳たぶに穴を開けて着けます
- 2本で1膳と数えます
- 祝いの席では尾頭付きが用意されることがあります

先月の当選者・解答

2月号のまちがい探しの答えは、
「2、3、6、9、12」でした。
抽選の結果、次の方が当選しました。
おめでとうございます。

馬木 るり子さん(豊川)

※()内は地区名です。

応募方法

答えが解った方は、別紙の応募用紙に答えと広報誌へのご意見・ご感想を記入の上、FAXにてご応募下さい。
抽選で、**共同給油所の洗車カード3,000円分を1人の方に**
プレゼントします。

読者の声

★子どもたちの同級生の子たちが
活躍している姿を見るのが楽しみです。
(匿名希望)

★表紙に誰が載るか、
毎月楽しみにしています。
(匿名希望)

プロの味を学ぶ!

JJAところ（川上和則組合長）は1月31日、「農家の食卓をより豊かに」を目的に、組合員を対象にした料理教室をファーマーズハウスうえるで開き、組合員家族や常呂自治区、青年部、女性部など11人が参加しました。

今回の講師は、サロマ湖鶴雅リゾートの元シェフで、常呂町の農業後継者である松本一紘さんと、アシスタントで奥さんの瑠美さんです。

松本さんは洋食のプロで、専門の調理器具などを駆使し、ワインやオリーブオイルなどを多用して3種類の料理を披露しました。

今回の料理は、赤ワインとエシャロットなどを2日間煮込んで作ったソースで食べる「仔羊のロースト」。白ワインやオリーブオイルなどに多種の魚介類をトマトソースで合わせて作る「スペゲティペスカトーレ」。デザートに発酵バターとバニラオイルで風味をつけ、しつこくない甘さで作った「ショーキークリーム」の3品。

松本さんは、火加減や味付けなど、料理の手法を丁寧に説明し、参加者もプロの手ほどきをメモ帳に記録したり質問したりして学びました。

「ご家庭では作らないのですか」との質問に、「家族は和食派なので作りません」との回答に、ドッと笑いがあり、会場は盛り上がりいました。また、一紘さんと瑠美さんのやりとりも場を飽きさせず、大変楽しい会となりました。

高級感のある料理に参加者からは「教え方がとてもわかりやすく楽しかった」「大変おいしかった。次の機会を楽しみにしています」などの声が多数ありました。

料理完成後には試食会が広かれ、豪華な料理に舌鼓を打ち、盛会に終わりました。



オシャレに盛り付けされた料理



料理を参加者に見せながら説明を行う松本さん(右)



元気な声で町内を賑やかに

※※※ところ雪ん子まつり※※※

「ところ雪ん子まつり」が2月10日、常呂町スポーツセンター前百年広場で行われ青年部・女性部・4Hクラブ・小豆生産組合が協力しました。



元気よく「雪ん子宣言」できました!!



ハッピーあんこストーンには多くのお客さんが!

寒さに負けない子どもたちの大きく元気な「雪ん子宣言」でスタートした雪ん子まつり。当日は天候にも恵まれ、イベントブース・販売ブース共に大勢のお客さんで会場が賑わっていました。

特に、4Hクラブの作ったジャンボすべり台は大人気で閉会までの間、子供たちの元気な声が会場内に響いていました。

編集後記

- 2月はじめに行われた常呂町農業技術・情報交換会。カメラマンをしながら、佐々木十美さんの基調講演を聞くことを楽しんでいたのですが、突然のインフルエンザ発症により参加できませんでした。機会があれば、ぜひ講話を聞いてみたいですね。
- いよいよ本年の営農がスタートです。玉葱の播種が始まりましたね。体調管理などに気を付け怪我などしないように作業を行いましょう。《営農企画課：広報担当》

次世代を担う

若者たち

玉葱の播種作業をする羽石遼祐さん

りょうすけ
今月の表紙は、共立地区の羽石遼祐さん（29）です。撮影日はとても暖かく、ハウス内で家族仲良く玉葱の播種作業で汗を流しているところを撮影させていただきました。

播種作業終了後、4Hクラブに加入して良かったこと、これから目標について聞くと羽石さんは「4Hクラブに入らないとおそらく関わることができなかつた同世代の農家の方と関わりあえたのはすごく大きい。また、これから農業は規模拡大であったり、スマート農業を取り入れたりと課題がたくさんあると思うが、その時代に後れをとらないような柔軟な考え方と農業知識を常に持ち合わせていきたい!」と話してくれました。農作業中でお忙しいところ撮影にご協力いただきましてありがとうございました。